

21年度開館を目指して

教育委員会では、平成21年度の開館を目指して、中央図書館を備えた安曇野市穂高交流学習センターの開館準備を進めています。

市民アンケートを実施

教育委員会では、中央図書館を備えた穂高交流学習センターの開館を準備するにあたり、

市民の皆さんの意向を広く把握するため、アンケート調査を昨年10月末から11月末にかけて実施しました。その調査結果がまとまりましたので、

一部を紹介

します。

この調査

結果は、今

後の中央図

書館の運営

計画や資料

購入計画な

どの検討材

料として反

映していき

ます。

また、結

果の全文に

ついては、

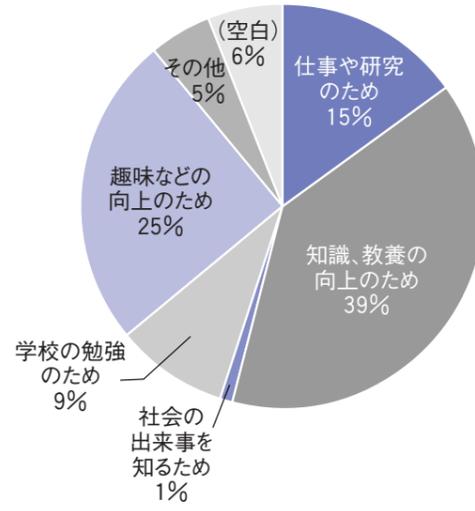
市ホームページ、市内5つの図書館窓口で閲覧できます。

調査の具体的な内容は、現在ある図書館の利用状況や中央図書館に期待することなどを調べたもので、全17項目にわたります。

このうち、中央図書館の利用目的を聞いた設問では、「知識、教養の向上のため」が最も多く、次いで「趣味の向上のため」という回答でした(グラフ1)。また、今後充実させるべきと思う図書館サービスについては「平日夜間の開館」という回答が最も多い状況でした(グラフ2)。

このほかには、インターネットを利用した情報検索機能導入への意向などを聞きました。

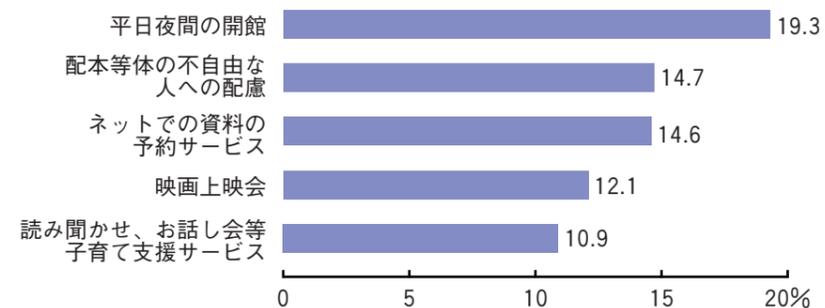
問 中央図書館を利用するとしたらどんな目的で利用したいですか？(グラフ1)



果の全文に

ついては、

問 特に充実させるべきと思う図書館サービスは何ですか？(グラフ2)(上位5つのみ掲載)



調査概要

- ①実施方法 昨年10月下旬から11月末までの間、各図書館窓口、市ホームページ、中学校図書室、ブックスタート実施時などにアンケート用紙を備え実施。
- ②回収枚数 1,118枚

建設予定地の状況

遺跡発掘調査を実施

教育委員会では昨年10月から11月まで、穂高交流学習センター建設に先立ち、建設予定地約2千平方メートルの遺跡発掘調査を実施しました。

今回の調査地点は、現在の矢原・白金のほか等々力・柏原の一部を含む「矢原遺跡群」の一角です。調査によって、この地点は河原のほとりに営まれた奈良時代から平安時代

にかけての集落があったことが分かりました。

発掘調査では、堅穴住居跡や掘立柱建物跡などが当時の河原の周辺に確認されました。また、古代の食器として使われた土器や鉄製品などが多数出土し、古代の人々の暮らしが浮かび上がりました。

造成工事に着手

発掘調査終了後には、同センターの造成工事に着手しました。

工事の内容は、建設予定地に隣接する市道の道路拡幅改良工事や旧小学校プールの取り壊しおよび駐車場整備、建設地の造成整備などです。

また、建設予定地には桜や杉といった樹木が多数植えられているため、極力伐採は行わず、既存樹木を生かしつつ景観に配慮する予定です。造成工事は、2月中の終了を目指しています。



既存の樹木は極力生かしました



発掘調査の現地説明会には約80人が参加

蔵書の流通に強い味方



教育委員会は12月25日、各図書館の蔵書の移動や配本サービスに利用する専用車を導入しました。これにより、市内5図書館のネットワーク化や、配本サービスの拡大を進めます。

配本サービスは、これまで豊科地域の福祉施設など4カ所で行ってききましたが、1月からは全部で16カ所に搬送します。このサービスは、まとまった冊数の本を福祉施設などに定期的に搬送するサービスです。

また、専用車の導入にあわせて、図書館のロゴマークを新たに作成しました。マークは、深い緑を背景に5色が並び、豊科はオレンジ、穂高は緑、三郷はピンク、堀金は紫、明科は青で表しています。今後の図書館運営で、このマークを活用していく予定です。



左は単色版のロゴマーク。右は専用車からスロープを出している様子。